

# 幼年期福祉研究

## 最終課題

担当教員：榎田美雄先生

人間教育専攻 幼年発達支援コース

M2 平岡裕美

## 1. 課題内容

家族の食事場面を撮影したものを部分的に抽出し、分析を行った。

1分20秒～2分05秒(約40秒間)

- 01 K : え : : : こんなん 1、300 円もするん いらんげ : : :  
((TVで放送されている七草粥の値段をみている))
- 02 母 : あの赤いん何やる?  
((TVで放送されている七草粥をみている))
- 03 K : (2.0) 赤ピーマンやないん  
((TVで放送されている七草粥をみている))
- 04 Y : [違うよ。(2.0)あれよ、中華の食材に使われとるやん、  
あの(0.5)杏仁豆腐の上にとるとる]やつよ
- 05 母 : [あ : : あ : : あ : : あ : : (わかったわか  
った
- 06 Y : = 何てやつか忘れたけど
- 07 H : = なんか、わかるわかる、鷹の爪じゃなくてピスタチオじゃないけど、そんな感  
じの名前やる (ふふふふふ)  
((Yの方を見ながら、含み笑いをしている))
- 08 Y : = わかったやろ (ふふふ)
- 09 母 : (2.0) なあちゃん、はい(1.0)おいしい  
((姪の口に離乳食を入れる))  
Yちゃん、ティッシュおろして : や  
((母は、姪の顔を見ながらYに声をかける))  
((Y : 顔はテレビに向けたまま、母にティッシュを渡す))  
((母は、姪の口周りをティッシュで拭いている))  
  
((母はテレビを聞きながら姪に離乳食を食べさせている))  
((父、Y、Hはテレビを聞きながら食事をしている))

(( Kは食事が終わり,父の横でテレビを聞きながら携帯電話をいじっている ))

10 父：なんで：：キットカットって

11 K：キットカットよ

12 母：=あのキットカットよ、昔からあったげ、それ

13 K：ほんとよ

14 母：あれ、誰の時やったかなあ]

15 K： [もう：なんよ

((父はKに首を揉んでほしいとKの腕を引っ張る。))

16 父：=首もんでよ：：：

17 母：あれ、誰の時やったかなあ (1.0) Hやったろ、あ、Yが (1.0) あの、 [

18 H： [YがHに

したんよ

19 母：=大阪から送ってきたんよな

続く

## 2. 考察

これは家族の食事場面である。父と母と娘1(以下Y) 娘2(以下H) 娘3(以下K) 姪：7カ月の会話である。母は姪(母から見ると孫)に離乳食を食べさせていて、父、Y、H、Kは食事をしている場面である。その時、七草粥を紹介している場面とあるホテルが受験生を対象にキットカット(チョコレート菓子)を配布しているというTVのニュース番組を見ている時の場面である。ここで生じた相互行為の流れを概説と分析をしていくことにしよう。01~09行目までの会話を前半とする。残りの10~19行目を後半とする。

まず、前半からみていこう。最初に、01行目でKが「え：：：こんなん1.300円もするん いらんげ：：：」と発言したところから会話は始まる。01行目で「1.300円もするん」と発言しているところから、普通に聞けば答えを求めている「質問」である。しかし、

この場合は、もう一つ、ただの意見のつぶやきなのかが考えられる。その直後に「いらんげ：：：」と続いているところから、ここでは、一緒に番組を視聴している周りの人の意見を求めた発言ではなく、自分自身の意見を周りの人にきいてもらいたかっただけだと推測される。

次に 02 行目で母が「あの赤いん何やる？」と問いかけをしている。しかし、この発言に主語はなく、問いかけの宛先は特定されておらず、誰が答えるべきか明確ではない。つまり、この場にいる全員に発言権が与えられているのである。その確証に 03～08 行目において会話が続いているのである。ちなみに、この「赤いん(物)」の正式名称は、「クボの実」であった。その後 05 行目において、母の「あ：：あ：：あ：：あ：：：(わかったわかった)」という発言に続いている。問いかけに対して自分が理解できた発話がみられ、会話が終了してもおかしくない状況であるにもかかわらず、05 行目以降にも、会話が続く。ここでもう既に会話の主体は、Y と H になっていることに気づく。また、ここで H の「なんか、わかるわかる、鷹の爪じゃなくてピスタチオじゃないけど、そんな感じの名前やる(ふふふふふ)」においての「ふふふふふ」という笑いに視点をおく。この笑いは、言いたいことは分かるし、イメージもできるが、その名称を思いだすことができないもどかしい気持ち、今 H は自分の言っている名称は明らかに違っていると分かっている様子が読み取れる。それに続いて 06 行目に Y の「わかったやる(ふふふ)」と続く。ここでの笑いは、Y も 04 行目において「違うよ。(2.0) あれよ、…」という発言から、Y と H は同じ心境であったのではないかと考えられる。つまり、この笑いは、言いたいことは分かるし、イメージもできるが、その名称を思いだすことができないもどかしい様子が読み取れるのである。この流れを把握した上で、08 行目の Y の発話「わかったやる(ふふふ)」に続くのである。

そして、09 行目において、トラブルが起きていることに気づく。それは、直前の 08 行目と 09 行目では、会話が成立していない。では、なぜ、09 行目の発話が出現したのだろうか。母の「(2.0) なぁちゃん、はい(1.0) おいしい」は、母なりの話題の終了を意味しているのだろうか。それとも、ただ、姪に対してその時感じたことを無意識に発言したのだろうか。これは、どちらもあてはまるように考えられる。母にとっては、05 行目において会話は終了したと感じているとも思われるからである。

ここから後半である。10 行目で父は「なんで：：キットカットって」と発話している。この発話にも主語はなく、問いかけの宛先は特定されておらず、誰が答えるべきか明確ではない。つまり、この場にいる全員に発言権が与えられているのである。その確証に 11 行

目以降において会話が続いている。また、15行目に以降においてトラブルがみられている。それは、会話の割り込みと中断である。14行目で母が記憶を呼び起こしている間に、この問いかけを発した父が自ら更なる会話の割り込みと中断を行っているのである。父の行動は15行目のKの発言と父の行動からも読み取れる。それにもかかわらず、母は、17行目において会話の修復を試みているのである。この修復は、成功し、その後は母とHの会話になっている。しかし、17行目で母が記憶を辿っている間に、Hが会話の割り込みをしている。Hの発言は、17、19行目で発話した言葉の先読みともとれる「まとめの言葉」であった。ここでは、Hは母が記憶を辿る時間も待てなかったのか、それとも、母が思い出せないのではないかと考え発言したのかは分からないが、この発話以降19行目の母の発話からは、何事もなかったかのように、会話は進んでいる。この後も、「キットカット」についての会話は続くが、問いかけを行った父が会話に戻ることはなかった。つまり、自分で問いかけをしたにもかかわらず、答えを求めていなかったという奇妙な場面でもあった。

### 3 . 感想

今回初めて会話分析を行った。これは、後から読み返すとその時の状況が鮮明に思い出すことのできる優れたツールになった。トランスクリプトにおこしている際や、自分自身が会話に参加している時には気づかなかったトラブルや、奇妙な場面に気づくことができた。普段、その会話に参加している人さえ気づかないトラブルや奇妙な場面は、とても面白く興味深いことを知ることができた。

これから、さらに勉強して、次回作成する機会があった際には、時間が短縮できるように頑張りたい。

この授業を受講し、難しく大変なことも多かったが、今となっては、新たなスキルを知り少しだが会得できて良かったと思う。